



第13回国際肝癌学会(ILCA 2019)

工藤 正俊

近畿大学医学部消化器内科学教授

ILCA 2019は2019年9月20日から22日までシカゴのマリオットホテルで開催された(写真1, 写真2, 写真3)。毎年同様であるが, 前日の9月19日にはPre-Conference Workshopが開かれ, “Metabolism and liver cancer: From mechanism to treatment”というテーマで充実した内容でのワークショップが開催された。また, 20日からの本会では3題のLate-breaking abstractを含む34題の口頭演題と, 225題のポスター演題が発表された。

まず, ILCA Symposium 1では, “The cell of origin of liver cancer”というタイトルで, ドイツのLars Zender教授より“Hepatocytes, cholangiocytes, stem cells, etc. Who to blame for liver cancer development?”という講演が行われた。また, 米国のAnuradha Budhu教授も“Cell of origin in human samples: Lessons from genomic studies”というタイトルで, basicな研究からの肝細胞癌あるいは胆管細胞癌, 混合型肝癌の発生についての講演

が行われた。

ILCA Symposium 2では, “Peri hilar cholangiocarcinoma”というタイトルで切除のための患者選択について名古屋大学の榎野正人先生からの講演, “Resection or transplantation for cholangiocarcinoma”というタイトルで米国のJulie Heimbach医師からの講演, および“Histological and Morphological Heterogeneity of Biliary Stenosis”というタイトルでノルウェーのKristen Muri Boberg教授からの講演が行われた。

またState-of-the-Art Lecture 1では, 米国のMelinda Bachini教授から“The patient perspective on cancer treatment”というタイトルで講演が行われた。その他, EASL SymposiumやAASLDとのJoint Symposiumが行われた。

恒例のILCA Single Topic Workshopsでは4つのテーマが取り上げられた。1つ目は“Molecular diversity in



写真1 筆者が Oral 発表している時の写真



写真2 VIP dinner

1日目の夕方にはILCAのVIP dinnerが行われ, ILCAの主だったメンバーがパーティーに参加した。